



↑ 成果報告する太田さん

ウェブサイトの充実を今後の展望として話しました。

隊員らの活動を聞くために参加した約30人の町民たちはそれぞれの活動報告に興味深そうに耳を傾けていました。愛知県から帰省中だった榊原千景さんは「長島でこのような取り組みがされていることを知らなかった。町外の人にも協力隊の活動を周知して長島を盛り上げて欲しい」と話しました。

○地域おこし協力隊が掲げる4つの目標

集まる 特色を活かして、魅力的な人と事を集める 【KPI】 目的別交流人口／経済効果 【テーマ】 産業振興・観光・人材	育てる 特色を活かして子どもが成長できる環境を作る 【KPI】 住民満足度 【テーマ】 生涯学習・教育
産む 結婚出産子育てを楽しむことができる家庭を増やす 【KPI】 出生数 【テーマ】 結婚・子育て	戻る 戻ってきたい魅力ある町をつくる 【KPI】 定住・移住者数 【テーマ】 健康・景観・交流



↑ 地元生産者との交流の様子



ぶり奨学金寄付金 寄付者の紹介

この度「ぶり奨学金基金」に次のかたから、寄付をいただきました。

- ・児島測量設計株式会社
- ・株式会社浜畑組
- ・株式会社フルタ
- ・浜畑弘記

「ぶり奨学金」は長島の子育てをみんなで支える仕組みです。

ぜひ皆さまにおかれましても、本制度に対する寄付へのご理解・ご協力をよろしくお願いします。

◎問い合わせ先

役場地方創生課地方創生係

☎（86）1101〔直通〕

半年間の活動経過を報告

第5回地域おこし協力隊活動報告会

9月7日、指江庁舎大ホールで「第5回長島町地域おこし協力隊活動報告会」が開催され、8人の地域おこし協力隊員らがこれまでの活動報告を行いました。

太田良冠さんはレストランでの営業経験を生かして、生産者と料理人の交流事業を説明し「長島の食材を全国に売り出していきたい」と抱負を話しました。

益田啓光さんは町内の空き家活用事業の実績から、転居者が希望する物件や地区を説明し、遠方の希望者向けに

長島大陸ブリうま食堂は2016年から運営され、首都圏や県内を中心にブリを使った弁当などを販売して本町の知名度アップを図ってきました。

実践研究では、構成機関の知見を活用し、平時には「都市部での食環境の充実」や「移動型アンテナショップとして」生

株式会社JFAが運営するキッチンカー「長島大陸ブリうま食堂」が都市部で食を通じたPRを行いながら、災害発生時に炊き出しをサポートする連携システムや人材づくりの実践研究を始めます。

この取り組みは、鹿児島相互信用金庫（鹿児島市、稲葉直寿理事長）、辻調理師専門学校（大阪府大阪市、辻芳樹校長）、慶應義塾大学SFC研究所（神奈川県藤沢市、玉村雅敏代表）、株式会社meirow（東京都渋谷区、柏谷奏行代表取締役）の4者による「地域おこし×災害支援フードトラック（キッチンカー）プロジェクト」の一環で8月31日に大阪市の辻調理師専門学校で研究開発協定式が行われました。



↑ 長島大陸ブリうま食堂と協定を締結した関係者

「ブリうま食堂」が都市の災害支援

キッチンカーの実践研究で協定

産地と都市部とのつながりの希薄化の軽減」などを担います。災害の発生時には「フードトラックの機動力や食材の加工、ストック機能」や「料理人によるボランティア拠点形成機能」など災害時の食の不安とリスクを軽減することに取り組みます。

協定式で川添町長は「今後、密に連携を取り地域社会形成の一躍を担ってもらえれば」と期待を込めました。

地方創生の事例発表

鹿児島県経営者協会

9月19日、ホテル・レクストン鹿児島（鹿児島市）で開催された第1回地域活性化委員会（鹿児島県経営者協会主催）で、土井隆地方創生統括監が登壇しました。

土井さんは「ITによる地方創生テクノロジーが変える地域の未来」というテーマで紹介し、本町が民間事業者と連携して推進している地方創生の取り組みについて重点的に話しました。参加者からは多くの質問が挙がり、本町の取り組みについて興味を示している様子でした。



↑ 本町の地方創生の事例発表をする土井さん

みんなで料理

ゆーや食堂開催

9月17日、蔵之元の居宅介護支援センター「達者の家」で地域おこし協力隊の甲斐友也さんが「ゆーや食堂」を開催しました。

センターの利用者や親子で参加してくれたかたなど35人ほどが集まり、一緒に秋刀魚の塩焼き、だご汁などを調理しました。参加者は料理に取り組む中で、笑顔が溢れ、世代を越えての交流を楽しんでいました。



↑ 料理を楽しむ参加者